

平成26年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

## 1 附属高等学校平野校舎の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

### (2) 所在地

大阪市平野区流町2-1-24

### (3) 学級数・収容定員

9学級(1学年3学級) 収容定員360人(1学級40人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

361人(男子166人・女子195人)

### (5) 教職員数

校長(併任)1人, 校舎主任1人, 副校長1人, 主幹教諭1人, 教諭20人(うち任期付教諭3人), 養護教諭1人, 中学校併任教諭2人, 非常勤講師11人, ALT2人, 事務職員3人(専任1人, 事務補佐員2人), 用務員1人

## 2 附属高等学校平野校舎の特徴

1学年3クラスの小規模校の特長をいかし、次の3点を重視する。

①生徒一人ひとりへのきめ細かな学習指導

②生徒会活動・学校行事など幅広い体験をとおして自主・自立の精神を育む生徒指導

③卒業生によるキャリアガイダンスや大学・職場での体験等をとおして将来への夢と志を醸成する進路指導

## 3 附属高等学校平野校舎の役割

(1) 大阪教育大学と連携し教育研究に取り組む。また、平野五校園の共同研究を進めること。

(2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行うこと。

(3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。

(4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

## 4 附属高等学校平野校舎の学校教育目標

・学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成

・国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

## 5 附属高等学校平野校舎の学校教育計画

1 グローバル人材の育成…授業の質・量の充実を図りつつ、総合的な学習の時間や学校行事、海外研修等をとおして、グローバル人材に求められる資質能力を育成する。

- 2 自主自立の精神の涵養…行事などに積極的に関わり、協働して企画・実施することにより、課題解決力や実行力、協調性・創造性などを高める。
- 3 「教育研究校」「教育実習受入校」としての取組…平野五校園共同研究を推進するため他校園と連携を図り、研究を進める。また、教育実習生の効果的な実習環境の整備と指導の充実を図る。
4. 「安全・安心な学校づくり」「保護者や地域との連携」への取組…学校安全への環境・体制づくりを推進するとともに、開かれた学校として保護者・地域との連携を深める。

6 附属高等学校平野校舎 平成26年度重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成
学校教育計画	1. 生徒の「学力向上」「志の醸成」とグローバル人材の育成…授業の質・量の充実を図りつつ、教科や総合的な学習の時間、特別活動をととして、グローバル人材に求められる課題解決力、コミュニケーション力、多文化理解力等を育成する。

年度重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(*評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
教科指導の充実	①生徒の能動的な学習、課題解決型学習の導入を図る。そのため、教員研修及び各教科における授業研究を進める。  ②1年生へのガイダンスの充実  ③学習状況調査の活用	①アクティブラーニングの導入に向けた教員研修を実施。複数の教科で新たに課題解決型学習を実践した。  ②1年生オリエンテーション合宿におけるガイダンスの全面的見直しを行った。  ③調査結果を個々の生徒への指導に活用した。	①・全教科においてアクティブラーニングを導入し、生徒の課題解決力を向上させる。また、授業方法の検証・評価・改善に全校で取り組む。 ・管理職及び教員相互の授業観察を増やし、授業改善を継続する。  ②実施後の調査結果から、ガイダンスの見直しの成果があったと評価しており、次年度も継続して実施し、検証・評価していく。  ③さらに効果的な指導に資するための調査項目の見直し、活用方法の検討を行う。	A	・来年度も授業研究、授業改善に継続して取り組むこと、管理職や教員相互の授業観察を増やすことは重要である。 ・生徒への様々なガイダンスを充実させることは、生徒の意欲高揚に効果的である。	A	・全教科においてアクティブラーニングの導入を図り、その成果を検証するなど、組織的な授業改善に取り組む。 ・教科、総合的な学習の時間、特別活動をととして、課題解決力等のグローバル人材に必要な資質能力の育成を図る。
進路指導の充実による高い志の醸成	1. 2年生における大学・職場見学・卒業生によるガイダンスを継続実施。特に1年生のガイダンスの充実を強化	2年生では大学や職場見学、アントレプレナーシップに関わる講義、卒業生のガイダンスを実施、1年生では、外国人大学生等との交流機会を新たに実施した。	全学年にわたる進路ガイダンスについて、進路研究部を中心に計画・実施する。	A	・卒業生や大学関係者の講演などを引き続き充実させるとよい。	A	・進路研究部と学年との連携を図りながら、特に第1学年でのガイダンスを更に拡充する。

グローバル 人材の育成	以下の取組を実施し、成果・課題を検証する。 ①1年生「総合的な学習の時間」における課題研究 ②夏休みに外国人大学生とのディスカッション(5日間) ③2年生英語科授業で、英語によるディベート ④台湾高雄師範大学附属高級中学の高校生との短期交換留学 ⑤大阪教育大学留学生とのディスカッション ⑥英語学習支援システム(e-learning)の活用 ⑦ASEPへの参加	①大学、企業、行政等の協力を得て、1年生全員を対象に課題研究を実施し、成果が得られたほか、来年度の継続実施に向けて課題も明確になった。 ②1,2年生 50名が参加。参加者のうち、100%が「研修に満足」と回答。 ③1年間隔週で実施。生徒の発言回数も増加するなど効果が上がった ④16名を受け入れ(12月)、16名が訪問(3月)。生徒間の交流が進んだ。 ⑤1年生が18カ国22名の留学生と、各国の文化等に係わって交流を行い、双方にとって成果があった。 ⑥ハード面の整備が遅れ、年度途中からの活用となった。 ⑦生徒4名が台湾での大会に参加した。	①課題研究については、課題解決プロセスに応じた教材の整備、連携指導者との協働、学習成果の評価・検証について計画的、組織的に実施する。 ②「英語によるディベート」「高雄師範大学附属高級中学との短期交換留学」「大阪教育大学留学生との交流・ディスカッション」「カナダ語学研修」の実施、「ASEPへ参加」は継続して行う。 ③英語学習支援システム(e-learning)による自学自習の利用者を拡大させる。	A	・本年度グローバル人材育成に向けて実践した様々な取組は、高く評価できる。継続して実施することを期待する。  ・これらの成果を校内外に発信していくとよい。	A	・成果と課題を整理し、来年度も継続して実施する。そのためにも運営組織を明確にしなが、校務整理を行う。
----------------	---	--	--	---	--	---	--

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成						
学校教育計画	2 自主自立の精神の涵養…学校行事などに積極的に関わり企画・運営することにより、自主自立の精神、協働して課題解決する力、創造性などを高める。						

自主・自立の精神の涵養	学校行事を通し生徒の自主性・行事運営力の向上を図る。	体育祭、文化祭、球技大会等は生徒が積極的に企画・運営し円滑に実施できた。	①生徒会の引き継ぎ時期が例年より遅れた。 ②生徒会・各委員会等の一層の活性化を全教職員がサポートする。	B	生徒の自主性や規範意識をさらに高める取組を期待する。	B	生徒会、各委員会の活動へのサポートを図る。
-------------	----------------------------	--------------------------------------	--	---	----------------------------	---	-----------------------

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成
学校教育計画	3「教育研究校」、「教育実習受入校」としての取組…平野五校園共同研究を推進するため他校園と連携を図り研究を進める。また、教育実習生の効果的な実習環境の整備と指導の充実を図る。 4.「安全・安心な学校づくり」「保護者や地域との連携」への取組…学校安全への環境・体制づくりを推進するとともに、開かれた学校として保護者・地域との連携を深める。

平野五校園 共同研究の 推進	平野地区五校園共同研究の推進、研究発表会における成果発表	・共同研究発表会で、国語、数学、保健体育科の研究授業を公開したほか、教科・領域ごとに成果と課題を研究集録にまとめた。	各教科・領域での課題について引き続き検討し、研究最終年度のまとめとする。	A	3年目に向けて具体的な成果物を期待する。	A	研究部が中心となって、各教科・領域の成果と課題を他校園と協働して整理するとともに、最終年度として成果物にまとめる。
教育実習	実習生間のミーティングを実施し、より実習の成果を向上させる。	・教科担当、クラス担当の教員からの指導のほか、毎日の実習生間のミーティングにより指導を実施。	教育実習主任と教科担当・クラス担当が引き続き連携して実習生の指導にあたる。	A	実習生への指導がうまく徹底できていた。	A	来年度も、教育実習主任を中心に、教科・クラス各担当者と連携した指導を行う。
保護者への 情報発信	WEB ページ、保護者への一斉メール連絡(緊急連絡等)を通した学校情報の提供に努める。	WEB ページを新しくして学校の取組をブログにより発信した。一斉メール連絡は必要時に効率的に活用した。	引き続き WEB ページ、連絡メールシステムからの情報発信を行う。保護者への配布物等の情報提供について検討する。	B	情報をうまく整理し、情報提供を組織的に行う必要がある。	B	組織を明確にし、情報の流れを整理して定期的発信を行う。
中学校等への 情報発信	中学生・教育関係者等に対する教育内容・入試情報の発信	昨年度と同程度の情報発信であった。	広報担当者による情報提供方法の検討が必要。	B	情報発信方法を工夫し、積極的な情報発信を期待する。	A	学校説明会の拡充など、大学・他校舎とも連携して実施する。
地域連携 学校安全 健康管理	①地域と連携した教育活動の実施 ②五校園合同の防犯訓練等の実施。危機管理体制の確立 ③校舎改築後の安全点検、学習環境向上	①1年生「総合的な学習の時間」において、平野区役所と連携しながら「平野区の行政課題への提案」について生徒が研究し、成果を発表した。 ②③予定通り実施。	①平成27年度も継続して実施する。 ②防犯訓練、救命講習会を実施し、生徒の安全確保を徹底する。 ③定期的な安全点検と学習環境の維持、健康管理を行う。	A	平野区との連携など、継続して実施するとよい。	A	課題研究に関連させながら、行政や企業との連携をさらに充実させる。